

# 瀬戸内企業としての 責任を果たすために

公共性の高い企業として、  
そして、地域の発展を支える企業として、  
私たちは、持てる力を最大限に発揮して、  
責任を果たしていきます。



## 貴重なインフラを運営する企業として

本州四国連絡高速道路株式会社は、特殊法人である本州四国連絡橋公団の民営化に伴い、平成17年(2005年)10月1日に誕生しました。そして、業務を効率的に遂行するために、当社を中核として子会社5社より成るJ B本四高速グループを構成しています。

私たちJ B本四高速グループは、世界最高水準の技術力をもって建設され、世界最大規模を誇る長大橋梁群であるこの本州四国連絡道路を適切に維持管理し、瀬戸内地域における交通の大動脈の役割を確実に果たしていくことを最大の使命としています。そしてサービスエリア・パーキングエリアでの売店・レストランの運営のほか、これまで培ってきた橋梁技術を活用した事業や地域と連携した観光振興などを行っており、これらの仕事を通じて、お客様に喜ばれ、社会に貢献する企業を目指しているところです。

こうした業務を適切かつ円滑に行うため、5つの項目から成る「経営理念」と、「経営理念」を実現するための社員の心構えとして「行動規範」を定め、これらに対する社員の理解の深化と実践の徹底を図りつつ、日々の業務の充実に努めています。

## 瀬戸内企業ビジョンの実践

本州四国連絡道路をご利用いただく皆様の期待と負託に応え、J B本四高速グループに課せられた使命を果たすため、今後のJ B本四高速グループとしての取り組みの方向と実践の内容を明らかにすべく、2008年4月、本書「瀬戸内企業ビジョン」を策定し、皆様にお示ししました。

このビジョンのとりまとめに当たっては、J B本四高速グループ社員一人一人が自ら考え、提案し、瀬戸内企業としての責任を果たすことができるような取り組みを実践していくことに重点を置きました。

「瀬戸内企業ビジョン」は大きく7つの柱により成っています。

第1は、「お客様への安全、安心、快適なサービスの提供」です。常に最適なサービスを提供できるよう、体制や設備の充実と万全な運営に努めます。

第2は、「200年以上の利用を目指した万全な維持管理」です。貴重なインフラが超長期にわたり機能発揮できるよう、先進的な維持管理に取り組みます。

第3は、「技術の活用」です。世界一の橋梁群を建設・管理する当社の技術を、国内外に広く活用していきます。

第4は、「環境への取り組み」です。日本最初の国立公園である瀬戸内海の環境保全、地球温暖化対策、循環型社会の構築に向けた取り組みを推進します。

第5は、「地域との協働」です。関係地方公共団体や各種団体、大学等と連携して、瀬戸内海地域の活性化や集客力の向上に努めます。

第6は、「情報の発信」です。本四連絡橋や地域の魅力を全国に発信するとともに、お客様やステークホルダーとの双方向のコミュニケーションを確立します。

第7は、「資産の有効活用」です。当社が管理する施設や保有する経営資源を幅広く活用して、地域の生活や産業の発展に貢献します。

さらに2009年6月には、この7つの柱のもと、各事業別の業務内容について、具体的な活動計画を定めた中期経営計画を策定し、本州四国連絡道路の維持管理をより着実に実施するとともに、経営基盤の強化に努めています。

本書「瀬戸内企業ビジョン」策定後3カ年が経過し、これまでの取り組み実績を反映した改訂版をお届けします。

今後とも、J B本四高速グループを挙げて各事業に取り組み、安全・安心・快適なサービスを提供することにより、地域の発展に寄与することを目指します。

2011年9月

代表取締役社長 伊藤周雄